

再会の希望に満ちた納骨式

山里 将之

みなさん、こんにちは！
貝塚聖書教会の山里将之です。

今年も、イースター＝復活祭の季節がやって来ました。貝塚聖書教会では、イースターの日曜日の午後、教会墓地に集まって、墓前礼拝を献げる習慣があります。いわゆる「お墓参り」とはちがって、永遠のいのち、復活のいのちを信じる、私たちクリスチャンは、「亡くなった方を供養する」ためではなく、「地上の生涯を終えて神様のもとに召された方とともに神様を礼拝する」ために集まります。

「イエス様を信じる者は、イエス様と同じように、いつか必ず復活する」という信仰を持っていますので、本来的には、クリスチャンは、あまりお墓のことについて、そこまで執着はしません。何しろ、復活するので…。

聖書の中の信仰者たちの中には、お墓がどこにあるのか、どこに葬られたのか、良くわからない、という人も結構います。代表的なのは、出エジプトで活躍した、偉大な預言者、モーセ。聖書によれば、彼の墓は誰にも知られていない、という事です。そして、イエス様ご自身はといえば、ご自分のものでも、家族のものでもないお墓に葬られました。けれども、三日目、イースターの朝によみがえってしまわれましたので、結局、そのお墓は空になってしまいました。

そんなわけで、クリスチャンは、一般的な日本人にくらべると、そこまでお墓に執着しないところがあります。ただし、一方で、残されたご家族、ご友人、関係者の慰めと平安を願い、召された方を偲び、思い起こす場所のひとつとして、お墓の大切さを認識しています。特に私たちの国においては、お墓を大事にする文化、精神性がありますので、この日本でキリスト教を伝える上では、ご家族への思いやりとして、クリスチャンもお墓を大事にしているわけです。



貝塚聖書教会の教会墓地

今度の墓前礼拝では、私の前任牧師、池尻良一先生の納骨式も予定されています。寂しさ、悲しさはもちろんありますが、それよりも、いつかまた会える、イエス様のもとでの再会が約束されている、その希望に満ちた納骨式となる事を願っています。